

平成21年度 兵庫県立こぼと聴覚特別支援学校 学校評価

1 本年度の重点目標

- (1) 幼児一人一人の発達や聴覚障害の特性を踏まえ、個々の幼児及び保護者のニーズに応じた教育を行なう。
- (2) 地域や関係機関との連携を深め、地域における聴覚障害教育のセンター的機能を果たす。
- (3) 学校評価の見直しを行ない、学校自己評価を広く公開することにより、保護者を含めたより多くの方々からの意見を受けて、本校教育のあり方を検討する。
- (4) 聴覚障害教育における専門性の向上及び継承を目指し、校内外における研修の充実を図る。

2 学校関係者評価委員会

- (1) 構成メンバーは学校評議員を兼任し、学校評議員会と同時に開催した。
- (2) 開催時期は、第1回を10月25日、第2回を2月26日に開催した。
- (3) 委員の任期は1年で、学校自己評価シートの評価項目や評価内容、本校の学校評価システム等について、意見や提言をいただいた。

3 学校自己評価シート

◎管理職及び、部長、各係の担当者が、それぞれの担当する分野の評価項目について、文章による評価と5段階での評価を行った。

- (1) 評価シートの実践項目の内容については、第1回学校関係者評価委員会で提示し、意見等を聴取した。それらの意見等を踏まえて評価シートの内容について検討し決定した。

- (2) 学校自己評価の内容

○領域 6領域（Ⅰ学校運営、Ⅱ教育相談・聴覚学習、Ⅲ教育課程・学習指導、Ⅳ教職員の資質向上
Ⅴ課題教育、Ⅵ情報教育）

○評価の観点（28評価項目）

I 学校運営（22小項目）

- | | |
|------------|-------|
| ①開かれた学校づくり | (3項目) |
| ②危機管理体制の整備 | (3項目) |
| ③学校評価の推進 | (4項目) |
| ④人権教育の推進 | (4項目) |
| ⑤交流活動の推進 | (4項目) |
| ⑥進路指導 | (4項目) |

II 教育相談・聴覚学習（11小項目）

- | | |
|---------------------|-------|
| ⑦関係機関との連携 | (5項目) |
| ⑧相談者のニーズに応える教育相談の実施 | (3項目) |
| ⑨聴覚のケアと研修の充実 | (3項目) |

III 教育課程・学習指導（21小項目）

- | | |
|-------------------------|-------|
| ⑩教育活動の計画と円滑な実施 | (6項目) |
| ⑪個に応じた学習指導の徹底 | (2項目) |
| ⑫親子支援の充実 | (3項目) |
| ⑬個に応じた保育の展開 | (3項目) |
| ⑭豊かな心とことばを育む教育の充実 | (5項目) |
| ⑮関係機関との連携並びに交流及び共同学習の推進 | (2項目) |

IV 教職員の資質向上（7小項目）

- | | |
|-----------------------|-------|
| ⑯実践的指導力と専門性の向上 | (5項目) |
| ⑰計画的な研修の実施及び報告と他校との連携 | (2項目) |

V 課題教育（20小項目）

- ⑮教材・備品の適切な点検と管理 (1項目)
- ⑯保育行事の計画・立案と必要な環境整備 (2項目)
- ⑰学校給食を通した望ましい食習慣の育成 (3項目)
- ⑱体育的行事の計画・立案と施設・用具の維持管理 (2項目)
- ㉑学校保健計画の立案と健康教育の推進 (4項目)
- ㉒防災教育の充実 (3項目)
- ㉓快適な教育環境の維持と動植物への興味関心の育成 (2項目)
- ㉔図書の購入・管理・活用や図書室の円滑な運営等 (3項目)

VI 情報教育（3小項目）

- ㉕情報・視聴覚機器の管理・活用、情報モラルの向上 (3項目)

(以上26評価項目及び84小項目)

(2) 成果と自己評価の欄（84小項目）

○文章表記 …… 各項目についての具体的なコメントを記入。

○評価 …… A, B, C, D, Eによる5段階評価を実施。

A・・・非常に成果があった、又は極めて十分な取り組みができた。

B・・・成果があった、又は十分な取り組みができた。

C・・・まずまずの成果があった、または普通の取り組みができた。

D・・・あまり成果がなかった、又は取り組みが不十分であった。

E・・・全く成果がなかった、又は取り組みが極めて不十分であった。

(3) 総合自己評価（26評価項目）

○複数の文章表記と評価を併せて、総合的な評価をA, B, C, D, Eで記入する。

A・・・非常に優れている

B・・・優れている

C・・・普通

D・・・やや不十分である。

E・・・改善を要する

4 年間の学校評価の流れ等

(1) 学校自己評価は、9月中旬に中間評価を、2月上旬に最終評価を行なった。

(2) 中間評価は学校関係者評価委員会（学校評議員会と同時開催）及びPTA役員会に提示した。2月上旬には保護者アンケートを実施し、結果は最終評価とともに学校関係者評価委員会で公表し、意見や感想等を得た。

(3) (2) で出された評価についても公表し、次年度の学校評価のあり方及び教育活動に反映させていく。

5 学校自己評価最終評価について

(1) 学校自己評価シート 5段階評価一覧 (数値は%)

*上段：小項目評価・下段：総合自己評価

評価分野		5段階評価				
		A	B	C	D	E
I 学校運営	小項目	27.3	59.1	9.1	4.5	0
	総合自己評価	0	100.0	0	0	0
II 教育相談 聴覚学習	小項目	54.5	36.4	9.1	0	0
	総合自己評価	0	100.0	0	0	0
III 教育課程 学習指導	小項目	33.3	66.7	0	0	0
	総合自己評価	0	100.0	0	0	0
IV 教職員の 資質向上	小項目	28.6	71.4	0	0	0
	総合自己評価	0	100.0	0	0	0
V 課題教育	小項目	50.0	45.0	0	5	0
	総合自己評価	37.5	62.5	0	0	0
VI 情報教育	小項目	100.0	0	0	0	0
	総合自己評価	100.0	0	0	0	0
計	小項目	40.5	53.6	3.6	2.4	0
	総合自己評価	15.4	84.6	0	0	0

(2) 最終自己評価のまとめと今後の課題

- ①評価にあたっては、前述したように管理職及び、部長、各係の担当者が、それぞれの担当する分野の評価項目について、文章による評価と5段階での評価を行ない、職員会議で個々の項目について妥当であるか精査した。
- ②小項目（84項目）のAとBを合わせると94.1%となり、本校の教育活動は成果があったといえる。
- ③総合自己評価（26項目）については、Aが15.4%、Bは84.6%となっており、小項目の（84項目）の評価よりAが減少しBが増加している。小項目での詳細な教育内容については良好な面が多くなっている傾向が見られる。
- ④小項目でのD評価は、「保育を通して交通安全指導についての意識を高め指導を徹底する」及び「幼児の居住地における社会参加を推進するために、地域の情報提供を行う」であった。登下校時の駐車場までの交通安全指導を強化したい。また、後者に関しては、関係機関との連携を深めることの他に、本校ホームページ上で他機関とのリンクをはる等して、保護者への情報提供につとめたい。
- ⑤本年度は、聴覚障害児教育の経験の浅い教員が増加した中でのスタートであったが、前年度の最終評価（小項目）の平均はAが39.2%、Bが55.9%、Cが6.9%、D以下は0%であり、今年度と比較して大きな差異はなかった。これは、聴覚障害児教育の基礎～今日的課題等について、年間22回実施した職員研修会や教員全員が1回以上取り組んだ研究授業、さらに、ほぼ週1回保育相談部、幼稚部それぞれで行った研究活動の時間において、保育実践を報告し合うことで、各自が研鑽を深められたことに起因しているものと考えられる。
- ⑥次年度もこの結果を踏まえ、学校重点目標を達成すべく課題を明確にして日々の教育実践に真摯に取り組むたい。

(3) 学校自己評価最終評価に関する学校評議員へのアンケートのまとめ (表中の数は全て回答数)

実践分野	実践内容	実践内容に対する評議員の評価				
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分らない
開かれた学校づくり	主たる学校行事を通して本校の教育活動を広く公開している	2	4			
	HPを通して本校の新しい情報をできる限り提供している。	6				
学校評価の推進	学校評価委員会を設置し学校の教育活動を評価する体制が整っている。	1	5			
	学校自己評価を広く公開し、それに対する意見や提言を受ける体制が整っている。	2	2	2		
交流活動の推進	地域の教育機関との交流を幅広く実施している。	2	4			
	様々な交流を通して、聴覚障害に対する理解・啓発への努力を払っている。	1	4	1		
	交流活動によって、幼児の健全な心身の発達を促すように努めている。	4	2			
関係機関との連携	医療機関と連携を取り乳幼児の聴覚のケアを十分に行っている。	4	2			
	近隣市町の保健師と連携を取り聴覚障害に対する適切な対処に努めている。	0	6			
	学校園等の要請に応じ、研修会の講師や巡回相談員の派遣を行っている。	2	3			1
学校自己評価全般についての感想や意見	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は評価する人の気持ちによって基準が違うので、評価結果だけで全部を判断するのは、どうかと思うことがある。 ・関係機関との連携等、保護者にとってわかりにくい所があるので評価しにくい。 ・(保護者アンケートの中に)「分からない」という項目に印が多いことに驚いている。ここから極端に考えるのは危険だが、単に通過する場所として子どもを預ける、教育内容には無関心といった方が増えているのかと心配します。 ・保育園や老人ホームなどとの交流活動を通して、子どもの社会を広げるという考えを更に進めてほしい。 					
本校教育活動に対しての感想や意見	<ul style="list-style-type: none"> ・全般にわたりとてもきめ細かく指導計画をたて、実践し研修されている。 ・年長児クラスになると就学に関して、どの程度通常学級についていけるか、本人・保護者ともその見極めが大切になります。月2～3回、個人(本人・保護者)で地域の幼稚園に交流することを、積極的に進めてはいかがでしょうか。 ・いつも、保育の工夫に感心させられています。聴覚の問題という専門性といわゆる保育という一般性をバランスよく教育活動に取り入れていくことは、本当に大変だと思います。その中で交流も大切で、保育所だけでなく次の段階の小学校との交流もあれば良いのかなと考えます。聴覚特別支援学校だけでなく、地域の小学校を知ることも大切な経験で、移行の負担も少し軽くなるのではないのでしょうか。 ・聴覚という専門性を十分に生かし指導にあたっておられ、私自身は保育への配慮という視点から、非常に参考になっています。もっと近隣の保護者間の交流(保育見学)があると良いと思います。 ・ホームページはとても良いと思う。その存在をアピールしたいものである。 ・いつもプログラムと物の準備、リーダー職員とサブ職員の役割分担、感心させられることばかりです。 					

6 保護者アンケート

(1) 保護者アンケートを2月中旬に実施した。その内容は下記のとおりである。

①下表の12の実践分野について、具体的実践内容としてそれぞれ小項目を設定した。

実践分野	具体的実践内容
開かれた学校づくり	3項目
危機管理・防災体制	4項目
学校評価	2項目
人権教育	2項目
交流活動	3項目
相談センター部	5項目
保育相談部	4項目
幼稚部	5項目
給食	2項目
体育的行事	2項目
健康教育	3項目
その他(動植物・情報機器の整備等)	3項目

(以上12実践分野、具体的実践内容38項目)

②具体的実践内容についての評価は下記の1～5から選択するものとした。

1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

③回収率 89.6% (43人/48人) 保育相談部：81.0% (17人/21人) 幼稚部：96.3% (26人/27人)

(2) 保護者アンケートのまとめ (数値は%)

*実践分野の「保育相談部」は保育相談部のみ(17)「幼稚部・給食」は幼稚部のみ(26)を母集団とした。

実践分野	具体的実践内容の評価				
	1	2	3	4	5
開かれた学校づくり	41.1	43.4	9.3	1.6	4.7
危機管理・防災体制	43.0	42.4	4.1	2.8	9.3
学校評価	23.3	30.2	16.3	5.8	24.4
人権教育	44.2	43.0	3.5	1.2	8.1
交流活動	22.5	36.4	19.4	3.9	17.8
相談センター部	54.4	35.8	4.7	0.9	4.2
*保育相談部	67.6	26.5	7.4	0.0	0.0
*幼稚部	35.4	47.7	11.5	3.8	1.5
*給食	59.6	23.0	5.8	1.9	9.6
体育的行事	39.5	39.5	4.7	4.7	11.2
健康教育	47.3	45.0	3.9	0.0	3.9
その他	45.7	37.2	4.7	1.6	10.9
平均	43.6	37.5	7.9	2.4	8.8

① 1及び2の平均値を合計すると80%を超えており、おおむね良好な評価が得られている。また、相談センター部・保育相談部・健康教育については90%を超える高い評価であった。

② 5の評価は、昨年度平均の21.5パーセントに比べ減少しているが、「学校評価・交流活動」についてはポイントが高いため、今後も保護者に理解していただけるよう伝えていく必要がある。さらに、学校関係者評価委員からも意見を頂戴した「交流活動」に関して、個人交流のあり方の検討が今後の課題である。

③ 本校は、毎日親子通学をしており保護者のニーズを担当が把握しやすい状況にあるが、アンケートを実施して改めて課題が見えてきた。特に3・4の評価が高い項目について内容を吟味して対応したい。